

第一回家庭教育学級 報告書

7月6日(土)に本年度初となる第一回家庭教育学級が行われました。講師に「みくりキッズくりにつく」院長の本田真美先生をお迎えし、～「頭が良い」って何だろう?勉強以外の得意な能力を見つけよう～をテーマに「認知特性」のお話を伺いました。約80名の方々にご参加いただきました。「認知特性」という聞きなれない言葉ですが、本田先生がわかりやすくお話し下さり、また参加者自身もその場で特性のチェックを行い、子どもたちだけでなくパートナーや自分自身の特性についても振り返り、納得しながらのあつという間の2時間でした。終了後もほとんどの方がアンケートにお答えくださり、関心度の高さがうかがえました。皆様の心に響くととても有意義な講座が開催できた事、講師の先生をはじめ、ご協力いただいた皆様、ご参加いただいた保護者の方々に深く御礼申し上げます。



講座概要

認知特性とは、『思考の嗜好』。同じことを見て、聞いても、全員が同じ方法で理解するわけではなく、人それぞれ生まれ持つので、思考や理解、表現にやりやすい方法があります。目、耳で得た情報をどうやって消化しているか?それを思い出すときに頭に浮かぶのは、絵?映像?言葉?音?など人によって、違いがあります。その特性は主に大きく以下の6つに分けられます。

視覚優位者・写真 カメラタイプ	言語優位者・言語映像 ファンタジータイプ	聴覚優位者・聴覚言語 ラジオタイプ
視覚優位者・3次元映像 3Dタイプ	言語優位者・言語抽象 辞書タイプ	聴覚優位者・聴覚音 サウンドタイプ

それぞれのタイプでものごとの理解や表現、思い出しが異なるので、タイプごとに合った勉強法も異なるとのこと。親自身、そして子どもの特性を知ることで、その子に合ったコミュニケーション方法や勉強の仕方を見つけるための手がかりとなりそうです。本田先生の著書に認知特性をチェックできるテストがありますので興味のある方はぜひご覧ください。

* アンケートより *

- ・3年生の娘の学習法に悩まされる日々でしたが、今日のお話を聞いて子供の認知特性のタイプがなんとなくわかったような気がして、今後の学習の向き合い方に参考にさせていただければと思います。
- ・最近、子供の特性を考え進路を考えはじめたところでした。いろいろと内容の濃い参考になる話ばかりでとても勉強になりました。「親の評価軸で子供は育たない」とても心に残る言葉です。
- ・子供のことを聞きに参加したつもりでしたが、自分の特性がわかるという想像していなかった結果でした。特性を活かして育児に役立てたいと思いました。
- ・どうして自分が言っていることが子供に伝わらないのか悩んでいたが、考え方が変わるお話だった。
- ・こういう特性があると知った上で子供に接すれば、今までのいらいらも軽減されるなと思いました。育児これからも頑張りたいです。

次回の第二回家庭教育学級は給食試食会を10月1日(火)にランチルームで開催予定です。